

令和5年度 がん教育等外部講師連携支援事業「がん教育外部講師派遣」報告書

学校等名 諫早市立喜々津中学校

担当者名 桑原 加奈子

電 話 0957-43-0024

F A X 0957-43-4013

実施日	令和 5 年 12 月 8 日(金) 13 : 00 ~ 16 : 00				
場 所	諫早市立喜々津中学校				
講座名	がん教育講演会				
講 師	医療法人 宇賀外科医院 院長 宇賀 達也 氏				
近隣校 への案内	案内先: なし				計 0 校
参加者	生徒	学校職員	保護者	他校職員等	その他 ()
	1・2学年 (184)人	(10)人	()人	()人	総計(194)人
テーマと 内 容	がんについて学びを深め、健康を守る、命を守る生活習慣の確立を目指そう				

<当日の様子> *事業の様子等を必ず画像で添付してください。



インフルエンザ流行のため校長室
から各教室へオンライン配信



教室の様子



保体副委員長からお礼の
言葉

<講師からの指導や助言>

- ・がんは誰でもなりうる病気であり、現在2人に1人がかかる病気である。
- ・がんの原因でわかっているものとして、遺伝、感染、生活習慣、高齢化がある。その中で、自分で予防のために頑張れるところは、生活習慣。がんのリスクを高めないために、若い頃から望ましい生活習慣を送ることが大事である。また感染対策として、がんの種類によって、ワクチン接種や菌の除去、血液やだ液がつかないように気をつけるなどがある。
- ・がんは、早期発見できると、9割は治すことができる。早期発見のためには、若いうちから検診を受けることが大切である。日本は検診受診率が低いので、おうちの方に検診を受けるよう伝えてほしい。
- ・がんの治療には、手術、放射線治療、抗がん剤治療がある。十分に説明を聞いて、選択するというインフォームドコンセントがとても大切である。
- ・がん患者が暮らしやすい社会とは、がん患者が何を求めているのか理解し、生活の質の維持・向上につなげることが重要である。
- ・がんが怖くない人はいない。むやみに怖がるのではなく、正しく怖がることが大切である。

<成果>

- ・がんについて詳しく知るとともに、今後自分で自分の健康を守るために、どのようなことに気をつけ、どのようなことをすべきか考えることができた。
- ・事前・事後のアンケートにより、学習内容が理解できたか把握することができた。

<今後の取組及び課題> * 今後のがん教育の充実に向けての活用等

- ・講演会の内容を保健だよりにまとめ、再確認にすることで、今後の生活に役立てる。
- ・今後もがんに関する学習を深めるとともに、がんを予防するための生活習慣の確立を目指したい。